

ソニー創業者の井深大は、戦後日本が科学技術で復興するためには、理科教育こそ重要だと考えていました。井深は日本初のテープレコーダーやトランジスタラジオを発売し、会社経営がようやく軌道に乗り始めた1959年に、「ソニー小学校理科教育振興資金」の贈呈を始めました。

当時の贈呈式当日に、井深大から受賞校の先生方へ贈ったメッセージをご紹介します。

※内容および名称・肩書等は当時のものです。

第4回（1960年） ソニー小学校理科教育振興資金贈呈式

「すべての人が科学する心を」 井深大 ソニー株式会社社長（当時）

科学的な雰囲気の中で

わたくしどもの会社が小学校理科教育振興資金贈呈の事業を始めるにいたった動機の一つをのべ、わたくしのあいさつといたします。

日本は人口過剰とよく言われますが、ひとりでも多くの人びとが、工業的・科学的技術を身に着けるなら、人口が多すぎるといふことは決してありません。むしろ、貴重でさえあります。「自分は工科出だ」とか、「文科出身だ」とか、スタンプをおして色分けをすることがあります。実際の仕事では、そんなことは不要です。

日本人はもっと小さいときから、科学的な素養を身に着け、科学的な雰囲気にはたることが大切だと思います。それが将来の日本に大きな意義をもつことは、わたくしの経験からもはっきりいうことができます。将来、大文学者、大芸術家になろうとも、小さいときに植え付けられた科学的素養は大人になってからも大きくものをいいます。この小学校理科振興資金をきめたのもこんな考えからでした。

科学への夢をのばす

ソニーが誕生し、テープレコーダーやラジオなどで、それ相当の利益を得させていただきましたが、これをなんとかご恩返しをしてゆきたいと思い、私たちのやっていることは科学的なことであるから科学的なことに報いたいと考えました。

新しい発明に対して力をそえるとか、大学の研究室に寄付するなどの話もありましたが、わたくしはやはり一番かえりみられないのは小学校であり、とくに地方の初等教育の科学的な分野であるから、そういうところに力を入れていくのが世の中の役にたつことであることを主張し、こういう企てになりました。



「明日の理科教育のために 第4集
(昭和35年11月発行)」より

わたくしは小学校の5年間を愛知県の安城市（当時は町）で過ごしましたが、そこでは科学的なものに触れる機会が非常に少なく、理科少年とかその他の雑誌を通じて科学的な物を求め、憧れておりました。そんなところから、わたくしの夢として地方の山の中でも、小学校の子どもたちに科学的なものを与え、満足させることができるかどうか、それが大人になって、どれだけものをいうかということ考えたのでした。

たとえば、わたくしの会社でアマチュアラジオをやった人がたくさん働いています。この人たちは、必ずしも技術系出の人ばかりではありません。アマチュアラジオをやってはいたが、大学は経済をでていたりなどしています。この人たちが非常によい働きをするのです。ものの考え方が非常に科学的であります。この若い時代のアマチュア精神が、職場の中にもいきているのではないのでしょうか。

こういうことが全国の小学校にゆきわたり、ヒューズやベルが壊れても、電気屋さんを呼ばなければならぬという日本の現状から脱皮して、全体的に科学的レベルが上がってゆけば、科学者が少ない、技術系が足りないということも解消されてきます。まず入れ物を作るよりは、中身をつくるのが大切です。すなわち、ひとりひとりの魂に、このような精神を植えつけることが必要であります。

全国に根をひろげてゆこう

今回の理科振興資金の募集にも、多数の応募があり、提出された計画書をひとつひとつ読みましたが、皆さまがいかに尊い仕事をしておられるかということを感じ、毎度ながら頭の下がる思いがいたしました。ただ、いつもわたくしどもががっかりすることは町の中や、都会から選ばれることが少ないという事です。しかしまた、さきほども申したように、地方の学校、山の中の学校に、こういう学校が現われて、この資金がお役にたてば都会で役立つよりも、もっと嬉しいことだと思っております。

差し上げる資金はごくわずかですが、これまでも十二分に活用いただいております。また、そのような学校が一つの地域にできると、まわりの学校が刺激され、科学教育が盛んになり、前の受賞校のすぐ近くから、次の受賞校が現われるという例が多くなってきました。このようにわたくしどものささやかな働きが、だんだんに根をはって、日本の将来に少しでもお役にたてば、主催者としてこれ以上の喜びはありません。最後に約1か月以上もお忙しい中を審査にあたってくださった三先生^(※)のご努力を深く感謝いたします。

※三先生： 当時の審査委員である茅誠司氏（東京大学学長）、篠原登氏（科学技術庁次官）、内藤誉三郎氏（文部省初等中等教育局長）のこと